

2017年10月27日(金)

# 未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第101号



## 目のつけどころと自己理解



支援部の K と I です。私達はペアを組んで仕事をする事が多いのですが、タイプが違う 2 人はお互い「世の中にはいろいろな人がいるのね～。自分が“普通”とっていたけど、“普通”なんかないわあ。」と気付かされます。K 先生は国語の先生ですし、私 I は主に理科や数学の授業を担当していますので、得意分野は真逆なのでしょう。しかしそんな事は序の口なのです。最近の笑える話を聞いてください。

それは八景から三輪の交差点までの国道 176 号線の話をしていた時です。

K「だから、三田幹線とは違うのよね？」

I「違うんです。ほら、あのスシローとか丸亀製麺がある道です」

K「うーん？」

I「あとは、ビッグボーイとかカレーの CoCo 壺番屋とか」

K「うーん、あんまり外食しないから分からないな。大きなお花屋さんがある道？」

I「お花屋さん？」

K「そうそう、それと橋の手前には着物のお店もあるでしょ？」

I「……？お花屋さん、あったような気はするんだけど」

K「……？スシローって、あの近くにあった？」

……全部ありました。同じ道です。……この会話をどう聞いても同じ道とは思えませんが。

どうも私 I にとって 176 号線は外食産業の並ぶ“おいしい道”で、K 先生にとっては“美しいものが並ぶ道”のようです。同じ道でも人によって随分印象が違うものですね。“目のつけどころ”が違うのでしょうか。

新たな気持ちで国道 176 号線を走ってみると、他にもいろいろなお店があります。意外に多かったのが、車のディーラーやタイヤなどを販売しているショップでした。そのつもりになって走ってみないと全く目に入っていないことも気付きました。きっと車に興味のある人が先ほどの話に加わったら、もっとかみ合わない会話になったことでしょう。

自分は“食”に興味があるんだなあ～。他の人は他のものに興味があるんだなあ～。

こうやって自分の事が分かる“自己理解”というのは、必ず他の人との“違い”で分かってきます。自分自身では普通と思っていたことが、人とのコミュニケーションによって“違い”に気づき、自分の内面を理解していきます。国道 176 号線が誰にとっても“おいしい道”だけでないと気付いたことが、自分の“目のつけどころ”を知るきっかけになったのです。自分の事なのに、自分だけでは分からないものですね。

思えば、生徒達は何を手がかりにして、“目のつけどころ”をどこに置いて学校生活を送っているのでしょうか？ きっと大人以上にバラバラでしょう。大人でもこのような違いがありながらのコミュニケーションをしている訳ですから、生徒達同士の会話のすり合わせはもっと難しいと思います。

ひとり黙っていたり、一方的に話すだけのコミュニケーションでは“自己理解”も“他者理解”も進みませんが、最初はちぐはぐな会話でもお互いコミュニケーションを取りたいと思う気持ちを大事にしたいですね。(I)



## うちの先生♪ T. K 先生

<◆ゴシック、(ゴシック)はレポーターY>

☆寄宿舎舎監長

T. K 先生にお話しを聞いてみました☆



◆先生は背が高いですね。身長は何cmですか？  
172 cmくらいかな。(た、高い私よりも高いじゃないですか！) 中高大とバレーボールばかりやってましたよ。ユニチカに行った先輩はもっと背が高かったよ～。(ユニチカってみなさん、わかります？「東洋の魔女」ってわかります？ 詳しくはT先生まで☺)

◆T先生は体育の先生？国語の先生？

初めは体育でした。(思い出しました！お腹に赤ちゃんがいる状態で採用試験を受けたというお話を！) そう、妊娠中だったので実技試験を一部口頭試問に変更してくださいました。合格は無理だろうと思っていましたが、合格通知が届いて自分が一番驚きました。そして1月に出産してその春から勤務しました。その時代は女性の体育教師は少なく勤務校も限られていたので、片道2時間弱の通勤をしましたよ。(乳児を育てながら、なんてハードな通勤！) その後転勤したある高校で創作ダンスの授業を担当し、剣道部の顧問。どちらも初めてだったので私自身も講習会に通い剣道は1級まで取りました。(なんでも頑張りますね～) その頃、大学時代に痛めていた膝がひどくなり、主治医に「体育教師を続けたいのなら手術を」と勧められ手術を受けましたが、手術後、主治医から「膝の状態がよくないので体育教師はあきらめた方がいい」と診断されました。しかし教師を続けたい気持ちが強かったので、通信で国語の免許を取り、周囲の先生方に支えていただき国語の教師になれました。(それで今は国語の先生なんですね) 家族と同僚に感謝しています。

◆ところで家庭ではどんなお母さんなんですか？

昔は“怖いお母さん”だったみたいです。子どもが小さい頃、就寝時間を過ぎても夫と子どもたちで楽しく遊んでいる。そこに私の足音が聞こえると子どもたちはお布団に飛び込んで寝たふりをしてるんですよ。可愛い寝顔に「えらいね」と話すのです。ちっとも怖くないんですよ。失敗もいっぱいするどんくさい母です。ただ「今年でしかできないことを一生懸命やりなさい」と言ってただけなんやけどなあ。

◆何事にも真摯に向き合い、とことん突き進まれてきた様子で、お話を聞いていてこちらも背筋が伸びる思いがします。

自分がわからないことは勉強する、人に教わる、それを自分でやってみる。その繰り返しです。多くの人に助けられて生きてきました。その実、不器用で一途だけなんですけどね。とにかくやりたいことをやってここまで来させてもらいました。「誠実に努力するのみ」です。(トライ&チャレンジ! とも一生懸命さが伝わってきます! エネルギーを分けてもらった気がします!)